



分科会 主旨

京都の都心部では、守るべきものが明確で伝統的な街並みが残っているように見えますが、放任しておいては崩れてしまいます。行政も「伝統的建造物群保全地区」や「歴史的景観保全修景地区」などに指定し、さらに地域でも NPO を作ったり、建築協定や景観協定を結ぶなど、さまざまな努力を重ねてきました。フィールドワークでは、現地を歩き、地域のリーダーのお話を伺い、景観を守り育て、コミュニティを形成されてきた経緯を学びました。

フィールドワーク E-1: 祇園町南側地区 (歴史的な建築とまちなみ)

祇園町南側の風情のある景観を形成していく過程では、その地域の方達へのアンケートという方法で、住民の意識調査をして多くの方が望んでいる事柄を把握し、みんなの総意という形で市との協議を行われた事や、この地域のまちなみを守る為の紳士協定として地区景観協定を結ばれた事。また専門家として、その地域に飛び込んでいく事の大切さなどが解った。

フィールドワーク E-2: 姉小路界わい (まちなみ整備と暮らしを守る)

観光地化されていない姉小路界隈で、参加者は京都の人々の日常や建物にとっても興味を持って見学されていた。自転車で昼食のお惣菜を売っている人に参加者が群がったり、犬矢来について聞かれたり、柱を共有して建っている町家に驚かれ、境界線はどこですか? などという質問もあった。また、地域住民が立ち上がってまちを守っている姿をみて、まちや住まいのあり方を改めて考えられ、自分たちのまちと照らし合わせて見学されていた。



E 分科会 「歴史的な建物とまちなみ」

司会 内藤郁子 (京都府建築士会)
 アシスタント 松尾大地 (京都府建築士会)
 アシスタント 堀尾智子 (京都府建築士会)
 アシスタント 小澤えみ (京都府建築士会)
 出席者 83 名 (他 近畿スタッフ 11 名)

フィールドワーク E-3: 清水学区

(歴史的な建築とまちなみを守る防災システム)
 歴史的な街並み、清掃が行き届いた「地域力」に感銘を受けた。地域で育った若者が住み続けたいと願った背景には昔ながらのコミュニティが息づいていたんだと思った。行政が守りたものが歴史的な建造物であり、そのことに反発はしても、生活者が生活する視点で地域を守ろうとしたことが、結果街並みを守っているんだと納得した。自分のまちを愛する地域力は大きいと思った。

まとめ: パネルディスカッション

パネリスト 地域生活空間研究所 上林研二さん
 姉小路界わいを考える会 谷口親平さん
 清水学区自主防災会 松井武司さん
 コーディネーター 松尾大地 (京都府建築士会)

分科会は 3 つのコース合同のパネルディスカッション形式で行った。

上林氏からは、「景観は経済活動の表れであり、

まちなみは人(ひと)なみである」、谷口氏からは、「景観を整えることは、資産価値を目減りさせないことに繋がる」、松井氏からは、「景観を形成していくうえでも、規制が多すぎるとつまらなくなる」と語られた。

会場からの「活動を引っ張る人が地域に少ない。」という悩みに対するアドバイスとして、「地域への愛着と誇りを持ち、人と歩調を合わせることを心がけ、それを、社会的交渉力・コミュニケーション能力を身につけられるチャンスととらえて、専門性を活かして取り組んでいくこと。」ということを示され、私たち建築士の役割を感じるものとなった。

